

平成29年度新潟大学

# 海外留学プログラム

中国

韓国

カナダ

フィリピン

オーストラリア

シンガポール

イギリス

新潟大学のプログラムのここがオススメ!

**ポイント1** 本パンフレット掲載プログラムはすべて  
単位付与対象です!

「新潟大学個性化科目」として、一定の成績を修めた学生には2~6単位が付与され、卒業に必要な単位としてカウントされます。

**ポイント2** 本パンフレット掲載プログラムはすべて  
奨学金支給対象です!

平成25年度から平成28年度は、すべてのプログラムが(独)日本学生支援機構(JASSO)の給付型奨学金の支給対象プログラムとなっており、JASSOの定める要件を満たす学生全員に対して月額6~10万円の返済不要の奨学金を支給しています。平成29年度の奨学金支給対象プログラムは、各プログラムの募集前(平成29年3月頃)に決定する予定です。



# 中華人民共和國

## 達成目標はコレ!

- 実践的な中国語のコミュニケーション能力を高める!
- 友達を作って、中国語で語り合う!
- 社会、人、文化に肌で触れて、生きた中国を知る!
- 中国語の学習歴がなくても歓迎します!

## 北京サマーセミナー

実施期間:平成29年8月~9月 4週間(予定)

滞在:清華大学学生寮

### 研修内容

講義は中国人講師によるダイレクトメソッド(日本語を一切使わない)で行われます。4週間で合計100時間程度の学習カリキュラムは、短期間に集中的に中国語運用能力を向上させ、大学の初修外国語を1年間勉強する時間数に匹敵します。クラスは能力別に編成された10名以下の少人数制で、新潟大学の学生のために開設される特別クラスです。外国人に中国語を教える知識と経験を豊富に持つネイティブ教員が担当し、授業内容については新潟大学の教員も精査することで、質の高い授業が行われています。また、引率教員が大学宿舎に共に生活し、現地での学習・生活面で、必要に応じた教育をきめ細かく行っています。現地での学習はGコード科目の6単位に認定され、また留学前後に実施する学力測定により長期的な観点からの学習指導も行います。

中国語の大幅な学力アップが最大のポイントですが、更に文化、社会、経済面での多角的プログラムが生まれ、相乗的にコミュニケーション能力の向上が図れるよう構成されています。例えば、歴史文化理解のための「文化芸術研修プログラム」、現地大学生との「交流プログラム(中国人民大学)」、日本企業の中国での活動を理解する「就職支援プログラム」、中国の最新経済事情を学ぶ「国際ビジネス学習プログラム(JETRO)」があります。また、週末毎に故宮、万里の長城、盧溝橋、宋慶齡記念館等の見学等、実地研修にも60時間以上が充てられています。

### 中国語を勉強しよう!!

(干野真一准教授・真水康樹教授)

国際社会における重要性がますます高まっている中国語には、こんなメリットがあります。

- 学びやすい:漢字を使うので分かりやすい
- 国際的ニーズ:中国の発展に伴う需要の急増
- 悠久の歴史:漢字文化圏のルーツを理解する「綺麗なマンダリン(北京語)ですね」というのは、中国語を話す者にとっては最高の誉め言葉と言えるでしょう。その響きは「素敵なお嬢さん・イングリッシュですね」と言われるのに通じるものがあります。発音は、癖がついてしまうとなかなか直りません。800年の首都・北京という最高の環境で、美しい発音と正統派の標準語を身につけましょう。

### 研修先について

#### 清華大学

北京大学と双璧をなす清華大学は、中国の最重点大学であり、中国では最も古い歴史を持つ大学の一つです。新潟大学とは、2000年3月に大学間交流協定を締結しています。この「北京サマーセミナー」は協定校である清華大学と協力して、23年にわたって実施されてきたものです。これまでに参加した学生は380名に達します。セミナー参加者の中からは、100名以上が、北京大学及び清華大学への長期留学を実現しています。本学から北京大学への長期留学者の91%がこのセミナーの出身者です。

### 参加学生の声

#### ◎経済学部2年女子

1日6時間、週5日という濃密な語学学習に加えて、週末には歴史的建造物を見学しに行き、中国の文化に触れ、自由行動では、大都会北京の雰囲気を感じ、実際に店員さんと中国語で会話をするなど、存分に中国を感じることができた。

#### ◎人文学部2年男子

短期間で集中してネイティブの先生の質の高い授業を受けることができたことが一番充実していたように思う。自分から中国語を使おうという姿勢を作ることができた。

#### ◎法学部3年男子

出発前は一か月に及ぶ滞在に対して不安もあったが、今となっては、この一か月は人生で最も有意義な一か月であったと思える。中国の最高学府である清華大学で中国語を学ぶという貴重な経験をする事ができたことを誇りに思う。

#### ◎医学部1年女子

中国語力はほとんどゼロだったが、授業や食事時の会話などで話す機会が多かったため一か月の間に見違えるくらい話せるようになり、発音も上達した。また、周りからの支えを受けつつ自律して生活出来たのでメンタル面を鍛える良い機会となった。

### 日程

平成29年8月~9月 4週間(予定)



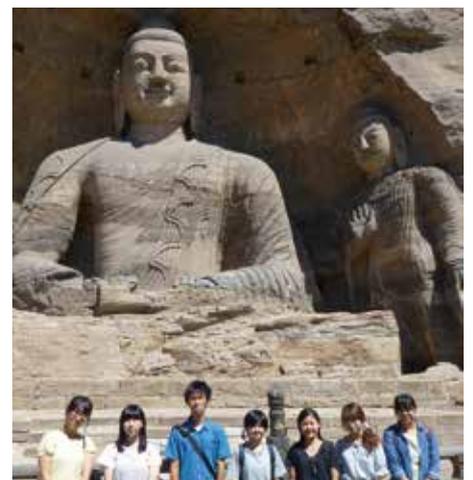
広大なキャンパスでのびのび学ぼう(清華大学)



景山から紫禁城(故宮)を一望、北京にしかない体験



やる気のある人だけのクラスだから、効果的!



小旅行では気分も晴れやか(雲崗石窟)



達成目標はコレ!

- 少人数の韓国語授業で実践的な韓国語力UP!
- 韓国の文化について学び、理解を深める

## 韓国サマーセミナー

実施期間:平成29年8月上旬~下旬 3週間(予定)  
 滞在:漢陽大学学生寮

### 研修内容

漢陽大学のソウルキャンパスで韓国語と韓国文化を学ぶ、3週間集中のサマースクールです。韓国語の授業は、初級から上級までレベル別に分けられた少人数クラスで受講します。また、漢陽大学の現役学生がチューターとなる韓国語チュータリングにより、韓国語授業では教えてもらえない言葉などを教わることができます。その他、韓国の伝統文化に触れる韓着着付け・茶道体験、伝統舞踊授業、韓国の今がわかる韓流体験トリップなどに参加します。

### 担当教員から一言

(藤石貴代准教授)

新潟から2時間で行ける「一衣帯水」の隣国。韓国と日本は文化・経済・政治的に関係が深く、距離的にも心理的にも「近くて近い国」になれるはず。韓国人の勤勉さ、前向きで積極的な人生への態度や人間関係、何より親切(おせっかい?)で人懐っこい「情」の世界には、「空気を読む」日本的コミュニケーションと正反対の解放感と人間味があふれています。食べ物も美味しい。引っ込み思案のあなたにもきっと勇気と元気を与えてくれることでしょう。日本語と韓国語は語順も同じ、語彙も同じ漢字語が多く、文字と発音規則さえ習得すれば、外国語のなかでも私たちが最も学びやすい言語です。言葉を知るとは心を知ること。何はともあれ「百聞は一見に如かず」。この機会にぜひ韓国を体験してみてください。きっともう一度(以上)、行きたくなくなります。



漢陽大学の現役学生が学習をサポート

### 研修先について

#### 漢陽(ハニャン)大学

1939年に東亜工科学院として設立され、建国技術学院、漢陽工科大学を経て1959年に漢陽大学校となりました。現在ソウルと安山にキャンパスを構えています。校訓は「愛の実践」、シンボルは「獅子」。韓国有数の名門大学であり、特に工学分野が有名です。政財界、芸能、スポーツ界などにも多くの著名人を輩出しています。ソウルキャンパスは、大学構内に地下鉄駅が乗り入れている(2号線「漢陽大」駅)など、交通至便です。

新潟大学と漢陽大学は、2009年に大学間交流協定を締結しており、より長期の留学を希望する学生は、1~2学期間、交換留学制度により留学することが可能です。



シンボルは「獅子」

### 韓国プログラムのここがオススメ!

このプログラムの大きな魅力は、①熟練した韓国語教師によるダイレクト・メソッド(日本語を一切使わない)の韓国語授業、②充実した韓国文化体験プログラム、③漢陽大学現役学生によるチューター制度(トウミ制度)です。特に、チューターからは学習面、生活面の両方においてサポートを受けられ、プログラム参加学生に大変好評です。

交換留学制度による1~2学期間の本格的な留学を考えている学生にもおすすめできるプログラムです。

3週間の現地滞在を通して、インターネットやテレビで知る情報とは異なる、韓国人の生活や考え方に触れることができるでしょう。

### 日程

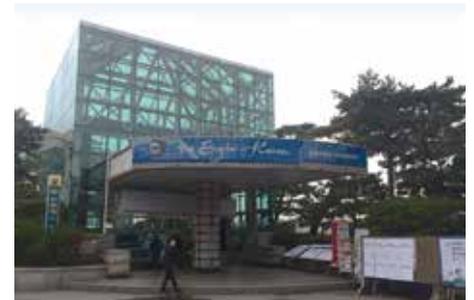
平成29年8月上旬~下旬 3週間(予定)

※日程は平成29年4月に確定する予定ですが、漢陽大学の都合により、セミナー開始日が新潟大学の第1学期試験期間中となる可能性があります。日程が確定次第ホームページに掲載し、詳しくは4月に開催予定の説明会でお知らせします。申込みの際には、試験に支障のないことを必ず確認してください。

- ◎韓国語授業
- ◎韓国文化体験



修了式



大学構内に地下鉄駅があり、とても便利!



染色工芸体験



伝統衣装を着て、韓国文化を学ぶ

- ◎カナダの歴史と文化について学ぶ
- ◎リスニング、スピーキングを鍛えて英語の総合力をUP!
- ◎ホームステイにより異なる文化に対する理解を深める

# カナダ サマーセミナー

実施期間：平成29年8月～9月 4週間(予定)

滞在：キャンパス隣接宿舎・ホームステイ

## 研修内容

30年以上の実績を持つエクステンション学部の英語プログラム English Language & Cultural Seminarを受講します。ESL (English as a Second Language) 専任講師による英語研修は、少人数制で丁寧な指導。市が誇るエドモントン公園や州議会を訪れたり、週末にはロッキー山脈へハイキングに行ったりと、課外活動も充実しています。



全員無事に修了証書をもたらえてよかった!

## 担当教員から一言

(ハドリー浩美准教授・岡崎百合子助手)  
新潟大学とアルバータ大学は1995年に大学同士の交流協定を結び、今までに約400名の新大生がこのサマーセミナーに参加しました。この機会を長期の留学に結びつけた先輩も少なくありません。

英語研修は、各国から集まった留学生向け英語授業のレベル別クラスに編入し、グループディスカッションやプレゼンテーションなど能動的に授業に参加することが求められます。午後には、週1～2回の文化施設見学等の課外活動が予定されており、授業の予習・復習、毎日の課題をこなしていると、あっという間に1日が終わります。

セミナー期間中は、アルバータ大学のカナダ人学生2名が新大生のグループリーダーとなり、“English Only Policy”により、生活上のケア・連絡事項などはすべて英語で行われます。日本以外の国から来ているクラスメイトとの交流や宿舎・ホームステイ先での生活など、この海外体験はきっと忘れられない思い出になり、視野も大きく広がるはずです。

## 研修先について

### アルバータ大学

カナダ国内外で最高の評価を得ている総合大学のひとつです。カナダ中西部にあり、学生数は3万7千人、留学生の数は4千人を超える、カナダでは2番目に大きな大学です。緑豊かな環境で、快適なキャンパスライフを実現できます。

## 日程

平成29年8月～9月 4週間(予定)

月～金：午前8時～12時 英語研修

午後は文化・社会・歴史施設の見学等

週末のカナディアンロッキーツアー(2泊3日)

1～2週目：キャンパス隣接の宿舎に滞在

3～4週目：ホームステイ



授業風景



カナディアンロッキーの雄大な自然



レイク・ルイズでのカヌーはボートより難しかった!



初めての乗馬体験

## カナダプログラムのここがオススメ!

アルバータ大学のあるエドモントン市は、都会でも田舎でもなく治安の良い街で、このプログラムでは、「宿舎での共同生活」と「ホームステイ」の両方を体験することができます。

前半は、カナダでの生活に慣れるため、メインキャンパス内の教室から徒歩約15分の宿舎に滞在します。寝食を共にしながら、共有スペースのラウンジ等で一緒に宿題や情報交換をしたり、レクリエーションにバスケットや卓球をしたり、新大生同士だけでなく他大学の参加者や諸外国からの留学生との交流も広がります。

後半は、各家庭に1～2人ずつホームステイをします。郊外の住宅地からバスや電車で通学し、日本とは異なる生活習慣や食事を体験することで、多文化社会であるカナダでの暮らしを実感して、より理解が深まるでしょう。

週末を利用したカナディアンロッキーツアーは、雄大な自然に囲まれたバンク国立公園を訪れ、ハイキングやカヌーでアウトドアに親しみ、リゾート地の中心街でショッピングを楽しむなど、週末を満喫できます。

達成目標はコレ!

- 英語の4技能を集中的に鍛える!
- フィリピンの社会・文化・歴史を体感する!
- アジアや世界から見た日本について考える

# フィリピンALLC英語研修

実施期間:平成29年8月~9月 5週間(予定)

滞在:キャンパス隣接宿舎

## 研修内容

フィリピン・マニラ市近郊のケソン市にあるアテネオ・デ・マニラ大学の言語学習センター(The Ateneo Language Learning Center (ALLC))において、英語研修を実施します。研修は、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4技能の強化・向上を目的とした5週間の集中型のもので、期間中合計120時間の英語学習を行います。参加者のレベルに応じてクラス分けされ、様々な国籍や文化的背景をもった人々と同じクラスで学びます。

## 担当教員から一言

(市橋孝道准教授)

海外の語学研修で英語力を磨きたいけど、金銭面や距離(時差)等のハードルで参加をためらってはいませんか?本研修は、そのような皆さんの向上心を応援するために設けられています。「英語力を伸ばしたい!」という気持ちに初心者も上級者もありません。海外に出るのが初めての方や既に語学研修に何度か参加したことのある方も大歓迎です。英語を公用語とするフィリピンでは、日々英語の実践力が試され、授業では高度で正確な英語の運用能力を伸ばすことが可能です。また、授業では、様々な国籍や文化的背景をもった人々と接することになりますので、多様な価値観を知り、グローバルな視野も自然と身につけていくかと思います。ケソン市ならびに大学周辺の地域は治安もよく、休日には快適な宿舎を出て、ちょっとした観光を楽しんでフィリピンの社会や文化・歴史に触れてもよいでしょう。

## 研修先について

アテネオ・デ・マニラ大学 アテネオ言語学習センター  
(The Ateneo Language Learning Center (ALLC))

アテネオ・デ・マニラ大学は、1859年に設立されたフィリピンのトップレベルのカトリック系総合大学です。新潟大学とは2017年に大学間交流協定が締結されます。研修先であるALLCは、アテネオ・デ・マニラ大学の人文学部の附属センターで、世界各国から学生を受け入れており、参加者のレベルに応じたクラスに分け、1クラス10名程度の少人数クラスで授業が実施されます。



世界遺産のサンオウガスティン教会

## フィリピンALLC英語研修のここがオススメ!

フィリピンの公用語は英語で、英語教育の質が高いことに定評があります。経験豊富な教員による充実した授業が、他の英語圏の国々と比較すると非常に安価で受講することができます。英語力を向上させて、より長期の留学を目指す学生にとっては最適な研修の機会となるでしょう。

過去の参加学生からは「効果的なカリキュラムで、参加前よりも英語学習へのモチベーションが上がった」、「他国の学生と交流することで、世界の現状について関心を持つようになった」等の感想が寄せられています。また周辺環境についても、研修が実施されるケソン市やキャンパス内の治安の良さ、コンビニや飲食店の充実ぶりといった「生活のしやすさ」を挙げる声が多く、集中的に英語を学びたい方には絶好のプログラムです。

今、世界中の企業の中でも東南アジアの国々が注目を浴びています。これから世界へ飛び出そうとしている若者にとって、現地を肌で感じる貴重な経験となります。

## 日程

平成29年8月~9月 5週間(予定)



聖人トマス・モアを囲んで



宿舎近くのレストランで



緑あふれるキャンパス



アテネオ・デ・マニラ大学



マニラ市内を走るジブニー

**達成目標はコレ!**

- オーストラリア文化を学び、独自の意見を持つ
- 多文化共生社会について理解を深める
- 英会話を実践し、ホストファミリーと心を通わせる

# オーストラリア 多文化共生社会体験

実施期間：平成29年8月21日～9月22日 5週間(予定)

滞在：ホームステイ

## 研修内容

異文化体験学習として、参加学生は現地での課題が与えられます。課題は、現地市民(ホームステイ先の家族等)にインタビューを行い日豪社会の比較及びその問題点を調査し、レポートにまとめることです。現地でインタビューしてまとめることが目的なので、課題は事前には知らされません。

英語研修では、レベル別にクラス分けされ、様々な国籍の留学生とともに週25時間のGeneral English Courseを受講。リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングを含めたコミュニケーション能力の向上を目指します。



QUT校舎

## 担当教員から一言

(池田英喜准教授)

本プログラムは、多文化共生社会であるオーストラリアにおいて、異文化体験学習(現地市民へのインタビューによる課題調査及びホームステイ)と英語研修を行うことにより、参加学生の異文化理解を促進することを目的としています。さらに、来るべきグローバル/多文化共生社会を円滑に運営するための中核を担う人材作りを目指しています。

様々な人種の人間と一緒に暮らしている社会に身を置き、文化が異なるとはどういうことを肌で感じてもらえるプログラムです。



一年を通して温暖な気候の緑豊かな都市

## 研修先について

国立クイーンズランド工科大学(QUT)  
インターナショナルカレッジ

ブリスベン市内から2キロの距離にあるQUT Kelvin Groveキャンパス内に立地。語学としての英語を学ぶコースや大学正規入学に備えるためのコースがあります。少人数クラスで、経験豊富な講師陣とスタッフに加え、コンピュータ・ラボや語学学習ラボなど、学生専用の学習施設も充実しています。本プログラムでは個人のレベルに合わせて学べるよう、初級クラス(Elementary)から上級クラス(Advanced)までのレベルに分かれ、General English Courseを受講します。

## オーストラリアプログラムのここがオススメ!

このプログラムの大きな魅力は、①5週間滞在中、現地の家庭にホームステイできること(各家庭1名ずつ)、②英語研修はレベル別にクラス分けされ、他の国の留学生と一緒に授業を受けられることです。

異文化体験を主としたプログラムのため、参加時の英語力は一切問いません。英語に全く自信がないというあなたも、躊躇することなく、ぜひ積極的に参加してください。日本から8～9時間のフライトと意外に近いオーストラリア。ブリスベンの時差はわずか1時間のため、日本での生活サイクルを保ったまま初日から意欲的に活動することができます。週末は、世界初で最大のコアラ保護区、ローンバイン・コアラ・サンクチュアリーを訪ねたり、ゴールドコーストへ足を伸ばしたりと、思い思いの過ごし方が可能です。

過去の参加学生からは、「わからないことだらけの土地で何でもトライしてみようという度胸がつき、使える英語がどんどん増えていった」、「文化・習慣・価値観の違いを肌で感じ、その違いを肯定的に受け取ることができ、自分の成長を感じた」、などの感想が寄せられています。本プログラムへの参加をきっかけに、交換留学等の長期留学を実現した先輩も少なくありません。学生の満足度が大変高いプログラムです。

過去の参加学生からは、「わからないことだらけの土地で何でもトライしてみようという度胸がつき、使える英語がどんどん増えていった」、「文化・習慣・価値観の違いを肌で感じ、その違いを肯定的に受け取ることができ、自分の成長を感じた」、などの感想が寄せられています。本プログラムへの参加をきっかけに、交換留学等の長期留学を実現した先輩も少なくありません。学生の満足度が大変高いプログラムです。

## 日程

平成29年8月21日～9月22日 5週間(予定)

- QUTインターナショナルカレッジでの英語研修コース受講
- 異文化体験学習  
プロジェクト班別課題調査実施
- ホームステイ



オリエンテーション・デーのキャンパス風景



様々な国籍のクラスメイト



ブリスベン市内見学



ホストファミリーと一緒に



# Republic of Singapore

達成目標はコレ!

- 留学・海外就職について考えを深める!
- 多文化共生のための実践力を養う!

## シンガポール スプリングセミナー

実施期間:平成30年2月下旬~3月上旬 10日間(予定)  
滞在:ホテル(研修先ビル内)

### 研修内容

午前中の英語研修では、言語教育において豊富な実績で知られる Regional Language Centre (SEAMEO RELC) において、An English Communication Skills Course を受講します。日本人が比較的不得意とするオーラルコミュニケーションに力を入れたプログラムであり、多民族国家での豊かな教育経験を持つ講師陣が、英語プレゼンテーションの方法について、英語のみで指導します。

午後は日系グローバル企業や研究所等を訪問し、実務家たちとの交流などを通じて、留学や海外勤務について考えを深めます。名門シンガポール国立大学 (National University of Singapore, NUS) への訪問も予定されており、日本語を学んでいる現地学生と実際に交流する機会があります。

### 担当教員から一言

(張雲准教授)

アジアは急速に新興している。IMFによれば、2015年の中国、日本、韓国、ASEAN諸国の名目GDPが世界全体に占める比率は26%となり、ヨーロッパ連合と米国の経済規模を超えている。東アジアの域内貿易率は5割を超え、日本の輸出の半分以上がアジアへの輸出である。また、APEC、ASEAN+3、東アジアサミットを代表とする地域協力の枠組みが、この新興の波を後押ししている。このダイナミックな地域を知らないと、今後の世界の潮流を見失うと言っても過言ではないだろう。

本プログラムは、発展するアジアの先端に立ち、東洋と西洋の結合点にあるシンガポールに焦点を当て、英語力を磨きながらこのダイナミックなアジア、そしてこれからの世界の動きを探ることを目的とする。本プログラムの特徴は単純な「語学研修」ではなく、「事前勉強」と厳選したシンガポールにおける訪問先の第一線で活躍されている実務家たちとの交流などを通じて、以下の効果を期待する。(1)国際人材の教養を身につける。(2)生きた英語のオーナーになる。(3)総合能力の向上及び様々な異文化の場面に遭遇し、自己表現力、国際的な判断能力や発信能力などを高め、自信を身につける。長期留学、国際的なキャリアへの起爆剤になることも期待している。

### 研修先について

#### SEAMEO RELC

東南アジア教育大臣機構 (Southeast Asian Ministers of Education Organization, SEAMEO) とシンガポール政府が合同で設立している、地域言語教育センター (Regional Language Centre, RELC)、通称 SEAMEO RELC は、1968年の創立以来、地域の言語教育とりわけ英語教育において豊富な経験と実績で知られ、留学生から社会人までを指導しています。



授業風景

### シンガポール・スプリングセミナーのここがオススメ!

多様な文化が共存する色彩豊かな美しい国シンガポール。高層ビルの隙間を埋めるように緑が勢いよく育ち、街全体に潤いを感じます。また、中国系、マレー系、インド系、アラブ系など多様な人種が共存し、地下鉄を利用すれば、リトルインディア、チャイナタウン、アラブストリートなどへ簡単に行くことができます。寺院やモスク、にぎやかな屋台やマーケットなど、それぞれまるで別の国に行ったかのような雰囲気を味わうことができるでしょう。

シンガポールの発展はめざましく、リゾート・レジャー施設がいくつもオープンし、地下鉄の路線も増え続けています。将来、世界を舞台に活躍したい学生に、ぜひ体験してもらいたいプログラムです。



マリナ広場にて

### 日程

平成30年2月下旬~3月上旬 10日間(予定)

- 1日目: 成田又は羽田発→シンガポール着
- 2日目: 市内観光
- 3~7日目: (午前)英語研修、(午後)企業・研究所等訪問、現地学生との交流
- 8~9日目: 自由行動
- 10日目: 帰国



企業訪問



研究所訪問



現地学生との交流



修了式



# United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland

## オックスフォード大学 英語研修

実施期間：平成30年3月中旬～下旬 約2週間(予定)

滞在：学生寮(オックスフォード大学ハートフォード・カレッジ)

達成目標はコレ!

- スピーキングを中心とした英語力UP!
- イギリスの文化や歴史について学ぶ!

### 研修内容

世界的な名門大学であるオックスフォード大学との連携により、English Language and Japan-UK Comparative Culture Programmeを受講します。本プログラムは、スピーキングを中心とした英語によるコミュニケーション能力を育成するプログラムであり、英語教育の経験豊かな講師からイギリス文化や歴史を学ぶとともに、英語プレゼンテーション・スキルの向上を目指します。また、研修にはオックスフォード近郊へのスタディツアーや実地研修等が含まれ、実践的な英語を学ぶことができます。課外では、オックスフォード大学の現役学生が、アシスタントとして様々なサポートをしてくれます。



オックスフォードの街並み

### 担当教員から一言

(ハドリー・浩美准教授)

歴史と伝統のあるオックスフォード大学にて、学生寮で生活を送りながら英語と比較文化を学んでみませんか。ハートフォード・カレッジはオックスフォード大学のほぼ中心に位置し、映画やドラマの格好の撮影場所ともなっています。徒歩圏内に名所がたくさんあることも魅力のひとつです。わずか2週間のプログラムですが、アクティブ・ラーニング型の授業で実践的な英語を学ぶと同時に、現地学生との交流やスタディツアーなどを通して多様な価値観に触れることができる充実したプログラムとなっています。あとはみなさんの努力次第で、生涯忘れられない貴重な経験となることでしょう。

### 研修先について

オックスフォード大学

ハートフォード・カレッジ

オックスフォード大学は、英語圏で最も歴史の長い大学であり、世界有数の学術機関として知られています。研修先のハートフォード・カレッジは、オックスフォード大学を構成する38カレッジのうち、1282年に創立された最も古いカレッジの1つです。歴史的なオックスフォード市の中心に位置し、「ため息の橋」とも呼ばれる美しい渡り廊下でも知られています。



電話BOXからひょっこり

### 日程

平成30年3月中旬～下旬 約2週間(予定)

午前・午後 英語研修

夕方～夜 オックスフォード大学の学生アシスタントと共に、様々なアクティビティに参加できます。



ため息の橋



授業風景



昼食会



ガラディナー

### オックスフォード大学英語研修のここがオススメ!

名門オックスフォード大学の歴史あるキャンパスでの英語学習や現地学生との交流などを通じて、学習意欲が刺激されることでしょう。研修の最終日には、「ガラディナー」と呼ばれるイギリスの伝統的な夕食会に準正装で参加するなど、イギリスの文化や歴史を実際に体験することができます。イギリス英語に触れられる点も大きな魅力です。

滞在中は、オックスフォード大学の現役学生が、寮生活から課外活動まで様々な面で皆さんをサポートするので安心です。オックスフォード市内や近郊には名所旧跡が多く、ロンドンへもバスで1時間半～2時間です。自由時間も様々な過ごし方が可能です。

発行年月／平成29年1月

発行者／新潟大学学務部留学交流推進課(TEL025-262-7631)

※本パンフレットに掲載されている情報は平成28年12月現在のものであり、変更となる場合があります。

## フィリピン ALLC 英語研修



法学部

旭 桃香さん

留学期間：2016年8月14日～9月17日

フィリピンALLC英語研修では、1か月間フィリピンに滞在し、ベトナムやタイ、韓国などのアジアの学生達と共に英語の勉強をしました。本研修では、英語の勉強のみならず、他の学生との交流を通して自分の視野を広げ、また自信をつけることができたという点においても非常に充実したものとなりました。

まず、英語研修に関しては1日平均6時間の授業で集中的に英語の4技能を向上させてきました。10人を超えない小クラスでの授業であったため、発表の機会も多く、また先生方も1人1人のレベルに合わせて丁寧に教えてくれました。座学の授業というよりもプレゼンテーションやグループワークなど自分から発信する授業の形式であり、数をこなしていくうちに自分

に自信がつかしました。研修中、特に印象に残っていることは、他国の学生の学習意欲の高さです。英語を上達させたいという意思が強い彼らから学ぶことはとても多く、自分の考えが相手に確実に伝わるまでジェスチャーや言葉を平易なものに言い換えたりして粘り強く取り組む姿勢に心が強く動かされました。また、自国の政治や環境についてしっかりと把握しており、考えていることが深く自分なりの意見も持っていました。自分が学びたいものや得たいものに対して積極的にアプローチする姿勢や、自国に誇りと関心を持つことの大切さを彼らから学びました。

休日は自由研修であったため、電車やバスなどの公共交通機関やフィリピン特有の乗り物を使って都市部や田舎部に行きました。自分達でそれらの交通機関の乗り方や使い方を調べたり、電話をかけたりすることの大切さを一緒に行った上の学年の先輩方から学びました。異国の土地で地図や情報だけを頼りに、実際に行動に移していく先輩方の生命力にとても驚き、私も今後そのような力を身につけていきたいと思いました。

フィリピンは発展途上国であり、お金をせびる小さな子供達やホームレスの人々などに遭遇しました。日本では当たり前だと思っていることが一歩外へ出てみるとそうではないことが身

に染みて感じられました。一方でフィリピンは日本とは違った意味で活気に溢れているように感じました。一日中騒々しく、バルーンを売り歩く人や自転車で食品を売り歩く人、人々の移動の手段である様々な車の運転手など、生きるのに必死な人々の姿が強く印象に残っています。これからさらに経済や事業が発展していく様子が伝わってきて、人間の生命力を肌で感じ、生きている実感がありました。

今回の研修で自国の政治や社会に対して自分なりの考えを持ち、何事もまず自分の頭で考えなくてはならないという当たり前のことに改めて気づかされました。経済的にも安定した豊かな日本の中にいて生温い生活をしていては分からない他国の現実や学習意欲の違いに大いに触発されました。本研修の経験を生かし、今後は英語を話したり書いたりしている自分自身を肯定することができるよう勉強を続けていきたいと思います。



## オックスフォード大学英語研修



医学部

孔 憲人さん

留学期間：2016年3月13日～3月26日

私はオックスフォード大学のハートフォードカレッジに2週間の留学をさせて頂きました。短期ではありましたが、世界最高峰の大学での生活を体験できたことは非常に有意義でした。

まず、授業に関しては、現地の先生の指導の下、英語でのコミュニケーションや、プレゼンテーションの練習を行いました。もちろん全て英語ですので、最初は不慣れで緊張しましたが、グループワークでしたので、楽しみながら学習をすることができました。授業は、私たちが自分の意見を積極的に発言して、それに対してフィードバックを頂く形式が中心でした。「せっかくな

でいるのだから自分を試さなければ」と思っていたので、物怖じせず発言し、コミュニケーションをとるように心がけました。また、授業の一環で、大英博物館やナショナルギャラリーの見学ができたのも、英国の歴史や文化を学ぶ貴重な機会でした。総じて、グローバル社会で生きていくために必要な、実践的な英語学習でしたので、やりがいを感じるものでした。

また、授業を終えた放課後も、交流は欠かせません。現地の学生や他の国の留学生と一緒に、オックスフォードの歴史的建造物を見て回ったり、ショッピングをしたり、サッカー観戦をしたり。夕食後の夜には、卓球で汗を流したり、パブに出かけたりもしました。いわゆる娯楽を通じた国際交流ができたのも、醍醐味の一つであったと思います。

週末は自由行動でしたので、自分の行きたい場所の観光をすることができました。自由な時間が多く、自分のやりたい活動を行えるというのもこのプログラムの魅力的な点でした。

最終日には全員、プレゼンテーションを行いました。ネイティブの前で英語のプレゼンをし、質疑応答をするのは初めてでしたので、有意義な経験となりました。夜にはガラディナーが

開催され、ろうそくの明かりの下で豪華な夢の晩餐会を楽しむことが出来ました。

今回の留学経験を通して、食べ物にしても建物にしても、ライフスタイルにしても、様々な点で異文化を感じ取ることが出来ました。世界中から多くの優秀な留学生が集っており、自分の世界観を広げることも出来ました。今後、英語は必要不可欠で、ますます勉強する必要があると感じました。

このプログラムは、春休み中の開催であるので、学年学部に関わらずに気軽に参加できます。また、海外の人と交流ができるだけでなく、新潟大学の他学部の人たちとの仲も深められます。生涯の素晴らしい人生経験になると思うので、是非皆さんも前向きに考えて頂ければ幸いです。



# 新潟大学の留学制度について

新潟大学では、留学の目的や学習段階に応じて、幅広い留学プログラムを用意しています。このパンフレットで紹介しているのは、語学研修や異文化体験などを主目的とした、全学の学生を対象とする1週間から5週間程度のショートプログラムです。ショートプログラムに参加するなどして、国際感覚や基礎的な語学力を身につけた後、学生が学修をさらに深められるように、専門分野の海外実習や、1学期間または2学期間の交換留学を用意しています。

## 留学の段階図



※上記は平成28年度のプログラム実施例及び留学先例です。平成29年度に実施するプログラムについては、留学ガイダンスやホームページ等で確認してください。

## 奨学金による支援が充実!

新潟大学では奨学支援が充実しており、多くの学生が(独)日本学生支援機構(JASSO)の給付型奨学金(返還の必要のない奨学金)を受給して留学しています。ここ数年、本プログラム掲載のプログラムはすべてが、また他のショートプログラム、専門分野プログラムについてもほとんどが奨学金支給対象プログラムとなっており、条件を満たす学生は月額6~10万円の奨学金を受給しています。\* 交換留学する学生については、7割程度が月額6~8万円の奨学金を受給しています。また、「トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラム」等の、より給付額の手厚い奨学金に挑戦し、獲得している学生も少なくありません。このほか、寄付金「新潟大学基金」により、独自の留学支援も行っています。

※平成29年度のJASSOの給付型奨学金支給対象プログラム及び交換留学向け奨学金の支給人数については、平成29年3月頃に決定する予定です。

## 1年生も参加しやすい!

本パンフレットに掲載しているプログラムは、例年多くの1年生が参加しています。海外生活に関するオリエンテーションも充実していますので、海外が初めての学生でも参加しやすいプログラムです。

少しでも留学に興味を持ったなら、まずは「新潟大学 国際交流・留学情報」のホームページをご覧ください。春と秋には全学生向けの「留学ガイダンス」を開催し、五十嵐キャンパス内の「留学交流推進課」では、「留学カウンセラー」資格を持つ職員が皆さんからの相談をお待ちしています。

## ●ショートプログラム募集時期

	募集説明会	募集締切
夏休みのプログラム	4月中旬～下旬	5月の連休明け前後
春休みのプログラム	10～11月頃	11～12月頃

## ●ショートプログラム参加にかかる費用と奨学金の例

プログラム名	期間	参加費(旅行代金、授業料、宿泊費、保険料等) <sup>※1</sup>	JASSO奨学金 <sup>※2</sup>
フィリピンALLC英語研修	5週間	約26万円	14万円(7万円×2ヶ月分)
オックスフォード大学英語研修	2週間	約50万円	8万円

※1 パスポート取得に係る費用、小遣い等は別途必要になります。

※2 その他地域のJASSO奨学金支給額(月額):中国(6万円)、韓国(7万円)、カナダ(8万円)、オーストラリア(7万円)、シンガポール(10万円)。

新潟大学の海外留学プログラムや国際交流について「国際交流・留学情報」ホームページで紹介しています。

<http://www.niigata-u.ac.jp/campus/international/>

新潟大学 国際交流 検索



※このパンフレット記載の情報は平成28年12月現在での情報であり、留学先等の都合により変更となる場合があります。

お問い合わせ先

**新潟大学学務部留学交流推進課**(五十嵐キャンパス内 総合教育研究棟D棟3階)

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地 TEL 025-262-7631 E-mail studyabroad@adm.niigata-u.ac.jp  
平日8:30~17:15(祝日・年末年始等を除く)